

[横浜美術館]

平成30年度業務計画及び収支予算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※文中の事業欄において、

●：主催事業 ○：共催事業

を示します。

※文中の達成指標欄において、

□：定量的指標 ■：定性的指標

を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m ² ・26,829 m ²
開館日	平成元年11月3日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

3 基本方針

(1) 基本的な方針

『第二期指定管理事業計画書』のとおり、平成25年度から10年間にわたり、「発信力の強化」「教育プログラムの強化」「市民とつながるプログラムの強化」「営業力の強化」「経営基盤と人材の強化」の5つの重点項目を定めて、次に掲げる美術館を目指します。

- ・市民の誰もが美術に親しみ、多くの市民に「観る」「創る」「学ぶ」機会を提供することにより、市民の創造性を育み、心豊かで活力に満ちた生活の実現に貢献する美術館。
- ・世界各国の美術館や美術関係者などとのネットワークの強化や国際交流を促進するとともに、横浜独自の魅力的で質の高い美術文化を国内外に発信することにより、国際都市横浜の魅力とアイデンティティの確立に貢献する美術館。
- ・市民、学校、NPO、企業等の様々な立場や年代、属性を持つ人々と協働することにより、市民から親しまれ、市民が集う、地域に開かれた美術館。
- ・未来を担うこどもたちの創造性を育むため、地域の学校や大学などと連携した取組みを進め、文化芸術教育の中心的な役割を担う美術館。

(2)平成 30 年度の位置づけ

平成 30 年度は、横浜美術館第 2 期指定管理の第Ⅱ期 3 か年計画(平成 28-30 年度)の最後との年にあたります。

第Ⅱ期 3 か年計画(平成 28-30 年度)では、「長期計画達成に向けた始動と基盤整備」期間と位置付けた第Ⅰ期 3 か年計画の成果と課題を検証し、第Ⅱ期を「学校教育・地域と連携し横浜の美術振興拠点としての地位確立」期間と定め、長期計画に掲げた 5 つの重点項目を踏まえ、第Ⅱ期 3 か年計画を展開します。

計画の実施にあたっては、次の 3 つの視点から事業を推進します。

- ・2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの機会を活かし、国際都市横浜にふさわしい世界に開かれた美術館を目指し、横浜市との政策協働を推進します
- ・横浜市中期 4 か年計画 2014～2017 における「アジアの文化ハブ」を目指し、海外発信を強化します
- ・横浜市中期 4 か年計画 2014～2017 における「子どもたちの文化芸術体験活動の充実」を目指し、鑑賞教育を充実します

これらを踏まえ、第Ⅱ期では、1)横浜トリエンナーレ以外の事業での海外発信、2)様々な鑑賞者にむけた鑑賞教育の定着化に重点を置きつつ、次に掲げる政策目標の達成を目指し、各取組みを実施します。

【経営】

政策目標〈経営〉 横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。

【事業】

政策目標〈事業①〉質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拓けます。

政策目標〈事業②〉魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。

政策目標〈事業③〉美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。

【運営】

政策目標〈施設運営①〉お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。

政策目標〈施設運営②〉財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。

【その他】

政策目標〈その他の業務〉政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。

4 経営に関する計画

◇政策目標『横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します』

(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取組み]

[目指す成果／アウトカム]	
<p>主会場としての当館の特性を活かすと同時に運営組織の構築・基盤整備を行い、国際的ネットワークを構築しながら困難な状況下でも継続的に実施することで、当館の発信力を最大限に発揮するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレへの全館体制での取組みを強化します。 ・新たに、新設する国際グループが中心となり、過去2回の横浜トリエンナーレの企画運営に関わった経験と、国内外の国際展に関する知見を基に、横浜トリエンナーレの国内外への発信力をより高める企画運営体制を市に提案し、推進します。 	
[取組内容]	[達成指標]
●ヨコハマトリエンナーレ 2020 に向けた準備	□平成 30 年 4-6 月 プレシンポジウム 1 回/年

(2) 海外への発信 [重点的な取組み]

[目指す成果／アウトカム]	
<p>当館の発信力の強化に資する事業として、アジアの国々と重点的に連携するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回し、活動を強化します。 ・コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 ・新たに新設する国際グループを中心に、全館体制で推進・強化します。 	
[取組内容]	[達成指標]
●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回	□1 回/年
●海外インターン受入	□1 回/年
●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成	□1 回/展
●日英での紀要の発行	□1 回/年
●外国人団体向けボランティア・トーク	□1 回/年
●日英での展覧会プレスリリース作成	□1 回/展
●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付	□1 回/展
●海外VIPへの展覧会招待状送付	□1 回/展
●海外来館者の把握	□通年

(3) 広報

[目指す成果／アウトカム]
<p>発信力の強化に資する事業として、事業および施設の広報を充実させるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報・連携体制の充実・強化：①個別の展覧会や事業ごとの宣伝と全館広報の両立、②市民やメディアとの信頼と関係強化、③館として発信するパンフレットや刊行物発刊、④ソーシャルメディアの効果的な運用方法の開発を実施し、活動を強化します。 ・マーケティングの強化：認知度および顧客満足度調査などを試行的に実施し、コンセプト及びターゲット

<p>ットの明確化の推進を、引き続き実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに、首都圏に向けた広報に力を入れます。 	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展覧会および全館広報などの通常業務 ● 首都圏広報 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 露出件数 700 件/年 □ ウェブサイトアクセス数 4,700,000 件/年 □ メールマガジン登録数 500 人増/年 □ Twitter フォロワー数 4,000 人増/年 □ ウェブを活用した全館広報 1 回/年 □ 首都圏と横浜の各々に焦点をあてた広報 1 回/展

(4) 外部との連携

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>営業力の強化に資する事業として、都市型美術館の特色を打ち出すため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市戦略との連携：創造都市、シティセールス、観光プロモーションと連携した事業展開を引き続き実施します。 ・専門性を活かしたネットワークの強化：①社会課題や子どもへの取組みについて財団内連携、②美術家、事業者、NPO、ボランティア、大学等との連携を引き続き実施します。 ・新たに、美術館の特色を生かしたオリジナリティの高い事業とするため、より高い質を重視した事業展開を目指します。 	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市推進事業との連携し、オリジナリティの高い事業を実施 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 4 回以上/年

5 事業についての計画

◇政策目標『質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます』

(1) 企画展

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、そして営業力の強化に資する事業として、展覧会基本方針等に立脚し、質の高い文化活動を実現するとともに、来館者の裾野を拡大するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく開催することを、引き続き実施します。 ・集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し、共催することを引き続き実施します。 ・コレクションをベースとした企画展の開催を引き続き実施します。 	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スード NUDE -英国テート・コレクションより 【会期：3月24日-6月24日・80日間】 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 入場者数 100,000 人 (1,250 人/日)

<p>近現代美術の殿堂として知られる英国テート・コレクションより、19世紀後半ヴィクトリア朝神話画から現代の身体表現に至る優れた作品を借用し、西洋美術の200年にわたる裸体表現の歴史を辿る。</p> <p>●モネ それからの100年【会期：7月14日-9月24日・64日間】</p> <p>西洋近代絵画を代表するクロード・モネの初期から晩年までの絵画と、その絵画に認められる諸特徴を引き継ぐ現代の芸術家たちの作品群とで構成。モネの芸術の先駆性、革新性を明らかにするとともに、以降のアートに及ぼした広範な影響を検証する。</p> <p>●駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙 ルドンを愛した銅版画のパイオニアとその時代【会期：10月13日-12月16日・56日間】</p> <p>駒井哲郎は日本における銅版画の先駆者であり、その作品には精神の内奥を表す文学性の高い世界が刻み込まれている。本展では、詩人や同時代作家との関わりに焦点を当てながら、駒井の深淵な詩的世界の魅力を紹介する。</p> <p>●イサム・ノグチと長谷川三郎 —変わるものと変わらざるもの【会期：1月12日-3月24日・61日間】</p> <p>彫刻家イサム・ノグチと、画家長谷川三郎の作品（彫刻、絵画、写真、素描等）約90点により、二人が出会った1950年代を中心に、両者の共通の関心事である前衛美術と日本古来の文化との融合がいかに探求され、実現されたのかを明らかにする。</p>	<p><input type="checkbox"/>入場者数 120,000人（1,875人/日）</p> <p><input type="checkbox"/>入場者数 20,000人（357人/日）</p> <p><input type="checkbox"/>入場者数 30,000人（492人/日）</p>
---	--

(2) New Artist Picks

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援するため、継続的に取り組み、広報を強化して、一定の入場者数を確保します。また、質の向上に取り組むと同時に、展覧会后5年間の作家の活動を把握し成果を確認することで、活動を強化します。</p>	
<p>[取組内容]</p>	<p>[達成指標]</p>

●New Artist Picks	<input type="checkbox"/> 開催 1回/年 <input type="checkbox"/> 入場者数 3,000人(メイン会場) <input type="checkbox"/> 展覧会后5年間の作家の活動を把握 1回/年
-------------------	---

◇政策目標『魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します』

(1) コレクション

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>収集方針に基づき、作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させ、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承し、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集：①市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品収集提案、②現行の中期重点方針を見直し、現状に即した内容に改定して横浜市に提案、3か年ごとの収集計画を策定して収集を促進、③横浜トリエンナーレの機会に話題性のある現代美術作品の収集提言を、引き続き実施します。 ・保存：①作品の安全な保存、②作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所の整備を、引き続き実施します。 ・活用：①原則として年2～3回コレクション展開催(展示構成やテーマ展示などを工夫、人気の高い作品を展示する一方なるべく多くを展示、特に新収蔵作品は迅速に展示公開、同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示、展示方法や展示室の環境整備と情報提供を工夫)、②コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コレクションの形成、保存に関する通常業務 ●コレクションの活用 ・コレクション展 ・第1期【会期：3月24日-6月24日・80日間】 同時期に開催する「ヌード展」のテーマと構成により、当館コレクションの魅力を伝える展示を行う。 ・第2期【会期：7月14日-9月24日、10月13日-12月16日・120日間】 同時期開催の二つの企画展、「モネ それからの100年」と版画家「駒井哲郎展」に緩やかに関連させたテーマ立てとセクション構成により、当館コレクションの魅力を伝える展示を行う。 ・第3期【会期：1月4日-3月24日・67日間】 同時期開催の「イサム・ノグチと長谷川三郎展」に緩やかに連動したテーマと構成により、当館のコレクションの魅力を伝える展示を行う。 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>入場者数 103,500人(1,294人/日) <input type="checkbox"/>入場者数 145,400人(1,212人/日) <input type="checkbox"/>入場者数 34,000人(508人/日)

<ul style="list-style-type: none"> ・コレクションパッケージ展国内巡回 ・コレクションの画像と解説をウェブ公開 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1回/年 □10 作品/年
--	--

(2) 美術情報センター

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にとって、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な収集・整理・保管、市民、専門家、子どもなど様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することを、引き続き実施します。 ・横浜トリエンナーレの実施にむけて、関連する美術情報を集積することを、引き続き実施します。 ・新たに、第Ⅲ期に向け、開かれた専門性をめざし、他事例の調査に基づいた具体的な取組みを検討します。 	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●収集、分類、保管、利用者提供などの通常業務 ●普及のための事業 ●第Ⅲ期に向け、開かれた専門性をめざした具体的な取組みを検討 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □利用者数 30,000 人/年 □普及のための事業 5 回/年 <ul style="list-style-type: none"> □展覧会と連携した特別展 3 回/年 □トークイベント 1 回/年 □学生向け研修 1 回/年 ■Ⅲ期に向け以下を検証 <ul style="list-style-type: none"> ・所蔵映像資料デジタル化

(3) 調査・研究

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>あらゆる美術館活動の基礎としての調査・研究を実施するため、成果は事業に反映すると同時に、紀要などにまとめて社会に還元し、活動を強化します。なお、専門性を広く市民のために役立てるため、専門的活動の効果的な開示を、海外も視野にいれて実施します。</p>	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●紀要の発行(論文 3 本以上, 日英併記, 販売検討) <p>[再掲: 日英併記]</p>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □1 回/年

◇政策目標『美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます』

(1) 教育プログラム：鑑賞教育 [重点的な取組み]

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>教育プログラムの強化に資する事業として、鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を果たすため、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元するという公立美術館の使命を果たすため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織新設し、鑑賞、創作体験、子ども対象を連動させた独自のエデュケーションプログラム始動し、活動を強化します。
--

<ul style="list-style-type: none"> ①ワークショップ、鑑賞会などコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化、②学校連携による鑑賞プログラムを開発、③主にコレクション展のための鑑賞サポートツールの開発を行い、活動を強化します。 視覚障がい者むけ鑑賞サポートツール開発により、活動を強化します。 展覧会鑑賞パートナーによるコレクション展ギャラリートーク等の実施を通じて、活動を強化します。なお、第Ⅰ期の様々なプログラムの試行を踏まえ、第Ⅱ期には横浜美術館の特徴を活かしたオリジナリティある定番プログラムの確立を目指します。 新たに、質を保ちつつ、市民ならではの視点を活かした個性あふれるボランティア・トークについて、外国人向けなど種類を拡大します。 	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企画展 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 ・ギャラリートーク ・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード) ●コレクション展 <ul style="list-style-type: none"> ・美術館職員の専門性を活かした各種トーク ・創作体験を取入れた鑑賞プログラム ・特別支援学校向けプログラム ・学校連携 <ul style="list-style-type: none"> ・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード) ・アートティチャーズデー ●ボランティアによるトーク：個人および外国人向け[再掲：外国人向け] 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □2回/展 □2回/展 □1回/年 □8回/年 □1回/年 □2回/年 □1回/年 □3回/年 □各々1回以上/年

(2) 教育プログラム：子どものアトリエ

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、子どもの自立を支援するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記を引き続き実施します。なお、鑑賞教育の活動が軌道にのってきた状況を鑑み、子どものアトリエは、創造支援活動中心とし、専門性をより深めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校のためのプログラム：学校連携、鑑賞を組込み、展覧会の内容や鑑賞ポイントを教師に伝えるレクチャーの開催、教師向けのワークショップ開催 ・個人を対象にしたプログラム：造形活動、鑑賞活動 ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等との連携 ・新たに、第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討します。 	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務 ●第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □利用者数 25,000人/年(再掲：研修) ■Ⅲ期の学校のためのプログラムおよび個人講座の

	<p>再編にむけて以下検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のためのプログラム 学校のためのプログラムと教師・保育士研修のバランスを見直し、より高い波及効果を狙う ・学校プログラム 90 校(再掲：研修) ・個人講座 アーティストや外部専門文化機関と連携し、美術館のアトリエとしての独自性を発揮する ・個人講座 20 講座中、アーティストあるいは外部専門文化機関との連携 2 講座/年
--	--

(3) 教育プログラム：市民のアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の実施を強化します。なお、著名アーティストなどとの外部連携による新しい分野の講座を開始します。 ・市民の創作活動を支援する事業の実施 ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等と連携 	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務 ●著名アーティスト連携による新分野講座 ●横浜市芸術文化プラットフォームによる学校連携 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □利用者数 5,500 人/年 □2 講座/年 □3 回/年

(4) 市民協働：ボランティア等

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業、多彩な市民力を取り込む美術館活動の強化（コレクションに関する教育普及）、ビジターサービス機能への市民の力の活用として、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエ運営ボランティア、美術情報センターボランティア育成を、引き続き実施します。 ・コレクション展でのギャラリートークや鑑賞会における展覧会鑑賞パートナーの育成を強化します。 ・ビジターサービスにおける市民およびNPO 法人との協働を強化します。 ・新たに、市民との協働については、外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進を検討します。 	
<p>[取組内容]</p>	<p>[達成指標]</p>

●子どものアトリエボランティア	<input type="checkbox"/> 20人/年
●美術情報センターボランティア	<input type="checkbox"/> 5人/年
●鑑賞ボランティア	<input type="checkbox"/> 25人/年
●ビジターサービス	
・横浜シティガイド協会等と連携した活動	<input type="checkbox"/> 2回/年
・外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな 対応を行うビジターサービス・ボランティアの 推進検討	<input type="checkbox"/> 10人/年
●「原三溪市民研究会」等と共同研究会実施	<input type="checkbox"/> 1回/月

(5) 市民協働：コレクション・フレンズ

[目指す成果/アウトカム] 市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、美術館活動を支える市民のプラットフォームづくりを実現するため、収蔵作品の保全、展示のための資金をサポートする市民を募る「横浜美術館コレクション・フレンズ」を継続発展させ、強化します。	
[取組内容] ●参加者数の拡大 ●メンバーシップの多様化とプロモーション策検討	[達成指標] <input type="checkbox"/> 180口 ■3口以上の会員に企画展に関する特典提供 平成 28年4月以降継続 プロモーション 1月実施

(6) 市民協働：各種社会貢献事業

[目指す成果/アウトカム] 市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、各種社会貢献事業を実施し、高齢者など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与するため、 ・横浜市、学校、関連機関、NPO法人、市民との協働を充実させ、強化します。 ・美術館におけるエデュケーション事業の「美術館アクセス・鑑賞サポート事業」「学校教育連携事業」「環境啓発事業」を実施し、強化します。 ・障がい者向け、学校向け、環境等の講座については、「教育プログラム」として実施し、「市民協働：各種社会貢献事業」においては、美術館に来館できない方に向けたアウトリーチを強化するとともに、美術に関わる人材を育成する人材育成事業を中心に行います。	
[取組内容] ●アウトリーチ ・病院等 ・福祉施設 ・高齢者施設 ●人材育成 ・博物館実習 ・子どものアトリエ インターンシップ	[達成指標] <input type="checkbox"/> 2回/年 <input type="checkbox"/> 1回/年 <input type="checkbox"/> 1回/年 <input type="checkbox"/> 1回/年 <input type="checkbox"/> 5名/年

・教師のためのワークショップ	□2回/年
----------------	-------

6 施設の運営に関する計画

◇政策目標『お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います』

(1) 来館者サービスの充実

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四つの基本方針(*)に従った来館者サービス業務 *1)顧客サービス員の質向上 2)顧客サービス員および市民協働の特性を活かし、より多様な来館者へのきめ細やかな対応実現 3)多言語で、高齢者等にも見やすいパンフレット等 4)グランドギャラリーでの季節感のあるおもてなし、プロモーション ●第Ⅲ期に向け、さらなるお客様の高い満足度をめざした具体的な取組みを検討 	<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> □展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」評点 4.00 以上 □展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔さ」評点 4.30 以上 □政策経営協議会で検討 1回/年
--	--

(2) ショップやカフェの付加価値の向上

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ショップ <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションを活用したオリジナル商品 ・企画展関連商品コーナー ●カフェ <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションを活用したオリジナルメニュー ・企画展関連メニュー 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □1商品/年 □1回/企画展 □1商品/年 □1商品/企画展
---	---

◇政策目標『財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します』

(1) 適正な施設管理

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大規模改修 ●日々の適正な施設管理 ●災害対応 <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの最新化と共有 ・訓練 ●開館30周年事業を検討する。 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大規模改修の実施にむけ市と協働 □安全管理事故 0件/年 □1回/年 □2回/年 ■H28の案に基づき以下準備 <ul style="list-style-type: none"> ・実施年のH31に向け、体制・事業・財源の確定
---	---

(2) 経営基盤の強化

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンドレイジング <ul style="list-style-type: none"> ・法人協賛制度支援者拡大 ・企業との関係構築にむけた継続的な営業活動 ・第Ⅲ期にむけた、新たなファンドレイズを検討 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>2社増/年 <input type="checkbox"/>10社/年 ■Ⅲ期にむけて以下実施 <ul style="list-style-type: none"> ・H31の30周年に向けた個人向け寄付実施
---	--

(3) 人材強化

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学芸員、エデュケーター育成を再構築 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学芸員、エデュケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用
--	--

7 その他：政策協働

◇政策目標『政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します』

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市の政策と事業の相互連携 ●外部意見の取入れ <ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者を交えた教育普及企画運営会議 ●年報発行 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>政策経営協議会 4回/年 <input type="checkbox"/>1回/年 <input type="checkbox"/>1回/年
---	--

8 人員配置

<p>[取組内容]</p> <p>過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化</p>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>計 46人 ・館長 1人 ・副館長 1人 ・グループ長 4人 ・担当グループ長 2人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員 29人
--	---

9 留意事項

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保険及び損害賠償の取扱い ●法令の遵守と個人情報保護 ●情報公開への積極的取組 ●市及び関係機関等との連絡調整 ●その他 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■業務の基準に基づいた適正な取扱い ■コンプライアンス窓口を設置し対応 <input type="checkbox"/>個人情報保護研修 1回/年 ■財団事務局に情報公開窓口を設置し対応 ■横浜市や関連機関との連絡緊密化
---	--

<ol style="list-style-type: none">1) 許認可及び届出等2) 施設の目的外使用3) 人権の尊重4) 近隣対策5) 重要書類の管理6) 行政機関が策定する基準等の遵守7) 法令の制定及び改正への対応	<p>■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施</p>
---	-------------------------------

平成30年度 「横浜美術館」 収支予算書

平成30年度 「横浜美術館」 収支予算書		
収入の部		(税込、単位：円)
科目	H30年度予算額 (A)	説明
指定管理料	759,971,000	横浜市より
利用料金収入	68,851,000	LH、駐車場、コレクション展観覧料他。コレクション展見込人数増等による収入増
自主事業収入	276,402,000	企画展観覧料、講座料、協賛金他。企画展見込人数増等による収入増
雑入	80,814,000	ショップ、カフェ等収入。企画展見込人数増によるショップ売上増
印刷代		
自動販売機手数料	972,000	企画展見込人数増による飲料水自動販売機の売上増
その他 ()	79,842,000	ショップ、カフェ等収入。企画展見込人数増によるショップ売上増
収入合計	1,186,038,000	
支出の部		
科目	H30年度予算額 (A)	説明
人件費	366,143,000	構成職員の職制変更による減額。
給与・賃金	299,675,000	
社会保険料	44,063,000	
通勤手当	6,623,000	
健康診断費	0	
勤労者福祉共済掛金	0	
退職給付引当金繰入額	15,782,000	
事務費	9,655,000	売上金の警送サービス導入費、専門研修実施費他
旅費	124,000	
消耗品費	851,000	
会議賄い費	0	
印刷製本費	658,000	
通信費	1,944,000	
使用料及び賃借料	1,570,000	
横浜市への支払分	161,000	
その他	1,409,000	
備品購入費	0	
図書購入費	0	
施設賠償責任保険	251,000	
職員等研修費	510,000	財団美術系職員専門研修実施の移管、防火管理者研修に伴う経費計上
振込手数料	1,000,000	金融機関集配金訪問サービス廃止に伴う、入金機及び警送サービス導入費
リース料	0	
手数料	1,700,000	登録人数増による顧客管理データベース使用料増他
地域協力費	1,047,000	
事業費	419,454,000	企画展開催数増による事業費増
自主事業費	419,454,000	
管理費	211,676,000	
光熱水費	72,739,000	前年度入札単価での積算による
電気料金	69,109,000	
ガス料金	30,000	
水道料金	3,600,000	
清掃費	27,100,000	開館日数増による経費増
修繕費	6,000,000	設備経年劣化による予算増
機械警備費	6,334,000	
設備保全費	99,503,000	
空調衛生設備保守	10,714,000	
消防設備保守	2,042,000	
電気設備保守	978,000	
害虫駆除清掃保守	0	
駐車場設備保全費	0	
その他保全費	85,769,000	企画展開催数増による人的警備費の管理費負担額減他
共益費	0	
公租公課	29,978,000	
事業所税	0	
消費税	29,948,000	
印紙税	30,000	
その他 ()	0	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	149,132,000	
本部分	68,300,000	財団事務局への繰入金(前年度総事業費の7%+役員報酬含む)
当該施設分	80,832,000	企画展開催数増によるショップ仕入費増、ネットワーク管理費増
支出合計	1,186,038,000	
差引	0	